KAIHO SDGs REPORT

Vol. 1

～ 循環型社会構築への挑戦～



中小企業として日本初 国連開発計画（UNDP）「ビジネス行動要請（BCtA）」加盟承認



トップメッセージ

自動車リサイクルで世界の「後始末」に貢献

会宝産業は代表取締役会長の近藤典彦が1969年に創業いたしました。弊社は自動車リサイクル業を通じて、資源の再利用・再資源化を促し、循環型社会の実現に向けた活動を行っています。

企業として存続するために利益を追求することは当然のことです。しかし、私たちはその利益のためだけに、事業を行っているわけではありません。
ビジネスを通して、世界の「後始末」をしようと真剣に考えています。

ものを製造するのが「動脈産業」、作ったものを「後始末」し循環させるのが「静脈産業」。世界では、静脈産業はまだまだ未成熟なものであり、この分野での事業が環境汚染や危険な労働環境を引き起こしています。私たちは自然界の摂理から学ぶことにより、「循環」を意識し、行動する必要があるのではないでしょうか。

会宝産業は、静脈産業のパイオニアとして、経済産業省、環境省、国際協力機構（JICA）、日本貿易振興機構（JETRO）、海外の現地政府・大学機関などと協力し、日本のリサイクル技術を海外に伝え、環境配慮型の自動車リサイクル事業を提案してきました。

このような中で、SDGs（持続可能な開発目標）が国連で採択され、「持続可能な消費と生産」、「すべての人々に働きがいのある人間らしい雇用」を促進するため、グローバルパートナーシップを形成し、地球規模での資源循環型社会に貢献してまいります。

会宝産業株式会社　代表取締役社長　近藤高行

SDGs（持続可能な開発目標）とは

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは、国連に加盟する世界193か国が合意した17の目標、169のターゲットのことです。貧困等の途上国を中心とした社会課題の解決のみならず、気候変動等の先進国・途上国共通の社会課題の解決を含め、2030年までに達成すべき目標が設定されています。

SDGs達成に向けて、当社の強みを発揮し、身近な課題と地球規模の課題を同時に解決することは、当社にとっての大きなビジネスチャンスとしての活用機会でもあるのです。



我々のヴィジョン

会宝産業は、事業方針として「地球規模における資源循環型社会の一翼を担う」ことを掲げています。世界では人口が増加し続け、世界の自動車の保有台数は13億台に上ると言われています。作りっぱなし、売りっぱなしではなく、誰かが「後始末」をしなければなりません。SDGsは、「誰一人取り残さない－No one will be left behind」を理念としています。SDGsの目標である「作る責任」「使う責任」に加えて、私たちは「後始末の責任」を自認し、日本人が持っている利他の精神で、地球規模課題を解決する静脈産業のパイオニアとして、常に船の舳先に立って果敢に挑戦してまいります。

ヴィジョンを支える３つの事業

1. 中古自動車部品を85ヶ国へ輸出

自社工場で専門教育を受けたプロフェッショナルが正しく自動車を解体・分別し、中古エンジンや中古パーツを世界85か国のお客様に輸出しています。中古自動車部品の流通にトレーサビリティの考えを取り入れ、アラブ首長国連邦（UAE）に設立した子会社やタイなどの合弁会社を通して販売することで、お客様に安心していただける取引を目指しています。

2. 日本国内での自動車リサイクル業者とのアライアンスネットワークの拡大

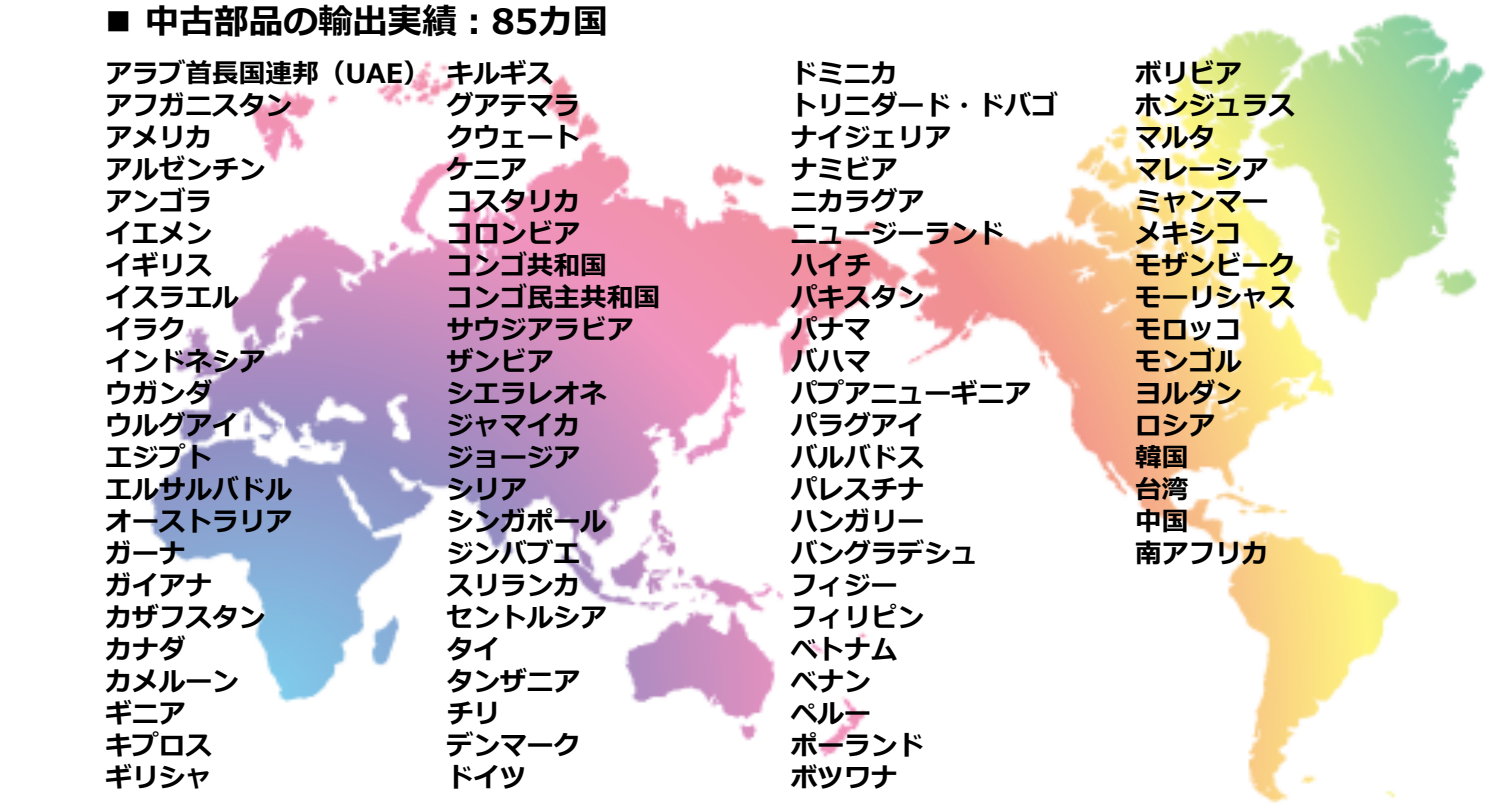
世界の自動車アフターマーケットを見ると、日本のリサイクル事業者のプレゼンスは圧倒的に低いのが現状です。自動車リサイクル業の収益性と社会性をお互いに高めて行くため、同業者同士で競争するのではなく、協調していくことで新たなビジネスモデルの構築を目指しています。当社が12年かけて開発してきた基幹業務システムを活用し、経営分析・仕入調達・海外輸出を一括サポートする自動車リサイクルアライアンスを目指します。

3. 自動車リサイクル事業の世界展開

発展途上国では、使用済み自動車は適切な処理をされずに廃棄されています。所得の低い個人事業主が人力・手作業による解体を行っているのみで、収集・解体にかかるスキルレベルは低く、作業場では労働安全衛生上の問題、廃油、鉛による土壌汚染、廃プラスチック・ガラス・タイヤの不法投棄による環境汚染が大きな社会課題となっています。
当社は、発展途上国の現地政府に対する自動車リサイクル政策の立案サポートを行い、リサイクル工場設備、生産工程、リサイクル技術・経営ノウハウの3点の技術を総合した自動車リサイクルシステムの提供を行っています。

実績

■ 中古部品の輸出実績：85カ国



アラブ首長国連邦（UAE）
アフガニスタン
アメリカ
アルゼンチン
アンゴラ
イエメン
イギリス
イスラエル
イラク
インドネシア
ウガンダ
ウルグアイ
エジプト
エルサルバドル
オーストラリア
ガーナ
ガイアナ
カザフスタン
カナダ
カメルーン
ギニア
キプロス
ギリシャ
キルギス
グアテマラ
クウェート
ケニア
コスタリカ
コロンビア
コンゴ共和国
コンゴ民主共和国
サウジアラビア
ザンビア
シエラレオネ
ジャマイカ
ジョージア
シリア
シンガポール
ジンバブエ
スリランカ
セントルシア
タイ
タンザニア
チリ
デンマーク
ドイツ
ドミニカ
トリニダード・トバゴ
ナイジェリア
ナミビア
ニカラグア
ニュージーランド
ハイチ
パキスタン
パナマ
バハマ
パプアニューギニア
パラグアイ
バルバドス
パレスチナ
ハンガリー
バングラデシュ
フィジー
フィリピン
ベトナム
ベナン
ペルー
ポーランド
ボツワナ
ボリビア
ホンジュラス
マルタ
マレーシア
ミャンマー
メキシコ
モザンビーク
モーリシャス
モロッコ
モンゴル
ヨルダン
ロシア
韓国
台湾
中国
南アフリカ

■ 日本国内アライアンスネットワーク

2017年10月に発足、2018年4月現在、41社に
加盟いただいております。



■ 自動車リサイクル研修

2007年に国際リサイクル教育センター（International Recycling Education Center）を設立。自動車リサイクルに関する知識や技術を体系的に学べる世界に開かれた教育訓練センターです。国内の自動車リサイクル企業のみならず、海外からの技術訓練希望者も広く受け入れています。

< 海外研修実績 >

2010.02.　JICA中南米研修　14名：政府・行政関係者、大学教授、メーカー、保険会社

2012.03.　JICAナイジェリアBOPビジネス連携研修
3名：NAC(National Automotive Council)、企業管理者、技術者

2013.05.　JICAナイジェリアの自動車リサイクルシステム構築技術者研修　10名：技術者

2013.07.　JICAナイジェリアの自動車リサイクルシステム構築行政官研修
14名：NAC、連邦司法省法案作成課、環境省、連邦道路交通安全課、
ラゴス環境保護省などの中堅行政官

2013.07.　JICAコンゴ民主共和国自動車リサイクル技術研修
8名：コンゴ民主共和国国立職業訓練学校教官

2014.11　フィリピンの環境配慮・資源循環型自動車リサイクルシステム構築のための技術者・管理者育成研修　8名：フィリピン損害保険会社大手のStandard Insurance社

2016.05.　JICA自動車リサイクル教育施設及びリサイクルシステムの構築のための技術・知識研修
7名：CEFET-GM(ブラジル/ミナス・ジェライス州連邦教育技術センター)教官

2017.11.　JICAマレーシアLEP2ELVリサイクル・法律構築研修
8名：マレーシア自動車協会、自動車交通省、能力開発省、マラ工科大学

社外からの評価

2006. 01　石川県ニッチトップ企業に認定
2008. 02　経済産業省主催　中小企業IT経営力大賞　受賞
2009. 03　第5回ハイ・サービス日本300選　受賞
2011. 11　第3回アリババサプライヤーアワード受賞
2013. 11　第13回EY Entrepreneur Of The Year Japan
　アクセラレーティング部門セミファイナリスト
2014. 08　（一社）船井財団グレートカンパニーアワード2014勇気ある社会貢献チャレンジ賞
2017. 06　SDGsビジネスアワード2017 「エコシステム賞」
2017. 12　WIRED Audi Innovation Award2017　受賞
2017. 12　国連開発計画（UNDP）「ビジネス行動要請（BCtA）」加盟承認
2018. 04　クロスセクター・リーダーズ・サミット 優秀賞受賞

※ ビジネス行動要請（Business Call to Action：BCtA）とは
2008年に発足した、国連開発計画（UNDP）を含む6つの開発機関・政府が主導する取り組みです。長期的視点で商業目的と開発目的を同時に達成できるビジネスモデルを促進させ、企業のコアとなる技術を適用しながら、貧困層の成長を活性化させ、持続可能な開発目標（SDGs）の達成を促進することを目的としています。

会宝産業は2022年までにブラジルにおいて、100,000台の使用済み自動車を環境に考慮した方法によってリサイクルをするバリューチェーンの構築を目標に掲げています。この事業は、地元のガレージや修理店を含む20の現地企業と15,000人のエンジニアの養成を行い、雇用創出にも貢献します。
自動車リサイクルの海外展開事業が、商業的な成功と持続可能な開発を両立する取り組みであることが評価され、会宝産業は中小企業として初めて「ビジネス行動要請（BCtA）」に認証されました。

プロジェクト事例

会宝産業は、国際協力機構（JICA）と連携し、ブラジルの国立大学CEFET-MG（ミナスジェライス州国立工業技術大学）内に自動車リサイクル教育センターを設立しました。
プロジェクトのきっかけは、CEFET-MGの一人の教授でした。彼は、2010年に当社IRECで行った自動車リサイクル研修のメンバーとして来日し、研修を通してブラジルで自動車リサイクルの必要性を認識し、帰国後、様々な組織に働きかけました。現在、CEFET-MG内の自動車リサイクル研修センターでは、現地の行政官や起業家向けに、解体から中古部品の販売・管理の技術指導を行っており、ブラジルでの静脈産業の育成に貢献しています。

また、2017年から3年間にわたり、マレーシアの政府高官・大学教授・現地のリサイクル事業者を招聘し、自動車リサイクル研修を実施しています。本プロジェクトは、日本政府とマレーシア政府の間で合意された国家戦略、ルックイースト政策2.0のプロジェクトの1つとして位置付けられおり、
マレーシアで放置された使用済み自動車が増え続ける中、日本のような自動車リサイクル法・関連税制・ガバナンスシステムの施行が急務な課題となっています。
2020年を目標に、マレーシアでの自動車リサイクルシステムの整備を促し、環境改善に貢献します。


放置される使用済み自動車


自動車リサイクル研修の様子

ミッション実現の仕組み

調達 → 生産 → 品質管理 → 営業販売

KRAシステム

当社の基幹業務システムであるKRAシステムは、使用済み自動車の入庫・生産・在庫・販売情報を一元管理し、経営改善するシステムです。使用済み自動車の品質状態を把握し、どれほどの有価物と廃棄物が取り出されたかの、追跡・算出が可能です。
自社で解体した部品一品あたりにかかる工数を把握すると同時に、当社の取引先である世界85カ国の顧客への中古部品の販売価格を元に、解体した車両1台あたりの収益性を分析することができます 。
KRAシステムは全国のリサイクル事業者様にもご利用いただいており、当社の販売実績を含め、全国の同業者様のデータも閲覧可能です。これまで海外での販売価格は、海外バイヤー様の価格支配権が強く、言い値で取引せざるを得ませんでしたが、当社はKRAシステムを通じて日本のリサイクル事業者間での協調を促し、情報共有プラットフォームの構築を目指しています。

調達

当社には上記KRAシステムの活用により、世界の市況に応じた部品販売価格と、解体にかかる工数を算出することで、使用済み自動車の仕入価格を適正に評価する仕組みがあります。
KRAシステムと日本全国のリサイクル事業者様とのネットワークを生かし、大手自動車リース会社様、中古車買取販売店様、カー用品店様から使用済み自動車を調達できる新たな仕組みづくりも進めています。

生産・品質管理

日本からの中古自動車部品は品質が良く大変人気があります。日本で使用されなくなった車は、まだまだ機能部品としても十分に再利用可能なものが多いからです。



しかし、再利用可能なものから再利用できないものまで様々な状態のものが流通しています。中古エンジンの品質は見た目では分からず、3万キロ走ったエンジンと30万キロ走ったエンジンの品質状態が異なるにも関わらず、同じ価格で取引されているのが現状です。

そこで、会宝産業は、中古自動車部品規格基準「JRS」（国際規格PAS777）を設け、その規格に適合した中古部品の販売を開始しました。
JRSでは、中古エンジンに対して6項目（エンジンコンプレッション、エンジン始動状態、走行距離、腐食、オーバーヒート、スラッジ）の品質評価基準を定めています。中でも特筆すべきは、エンジン燃焼室内の異常、変摩耗を確認するJRSエンジンテスターの開発・導入です。



エンジンの機能評価を公表することで、中古部品購入後のクレーム・トラブルを防ぐことができると同時に、品質状態に応じた適切な市場価格の形成に寄与します。

ミッション実現の仕組み

販売・マーケットプレイスの創出

アラブ首長国連邦（UAE）に所在するシャルジャ首長国は、数千の自動車中古部品業者が集まる世界最大の物流拠点です。
当社は2014年、シャルジャ首長国にて現地法人を設立し、同年12月より中古自動車部品のオークション会場を開設しました。日本で生産した中古エンジンをはじめ、外装・内装・足回り部品などを出品してオークションという形態で販売を行っています。

日本のリサイクル事業者にとって、中古部品の販売形態は、海外のバイヤーさんが来日し、彼らの言い値で販売していることが多いのです。オークションという形で多くのお客様に入札を促すことで、買い叩かれることを防ぎ、また、中古マーケットの適正な相場を把握することができます。

当社はこのオークション会場を、日本の他のリサイクル事業者にもご活用いただき、日本からの中古部品輸出に対する付加価値向上にもつなげていきます。



ステークホルダー巻き込み

会宝産業では、2011年から毎年8月に「リサイくるまつり」を開催しています。地域の皆様への感謝の気持ちを伝えるため、そして、会宝産業の取り組みを知っていただくために、使用しなくなった自動車がどのようにリサイクルされるのか、「もったいない」、「あとしまつ」に関して学ぶ機会を提供しています。特に子どもたちに興味を持ってもらうためにも、縁日に加えて、実際に使用済み自動車から外装部品やエンジンを解体して見せる「自動車解体ショー」を開催し、車から取り出したエアバックやシートを活用したリサイクル教室などのイベントも開催しています。



また、年に1回、2月に「感謝の集い」を開催しています。感謝の集いは、経営方針説明会、基調講演、懇親パーティーの3部構成でなり、社員や社員のご家族、そしてともに歩んでくださった会宝産業と関係する皆様をお招きし、当社の1年の実績発表と今後の目標を宣言するとともに、大切な皆様へ「ありがとうございます」の想いを伝えさせていただいております。



国際会議・シンポジウム

当社は自動車リサイクルの重要性を世界へ伝えるため、積極的な啓発活動を行っています。
2005年　愛・地球博に出展
2006年　第1回国際自動車リサイクル会議開催
2008年　第2回国際自動車リサイクル会議開催
2009年　第3回国際自動車リサイクル会議開催
2012年　国連持続可能な開発会議（リオ+20）に出展
2013年　第5回TICAD（アフリカ開発会議）に出展
2016年　第6回TICAD（アフリカ開発会議）に出展
2017年　グローバルフェスタJAPAN2017パネリスト登壇
2018年　第3回 BoP Global Network Summitパネリスト登壇



SDGsに対応するビジネスモデル

会宝産業は2030年のSDGs達成に向けて、コアビジネスそのものを通じたSDGsへの取り組みを強化していきます。自社の事業活動のバリューチェーンにおけるSDGsのマッピングを例に整理しました。廃車の調達から生産、品質管理、販売に至るまで、各段階でSDGsが以下のように関係しています。さらに、販売後の中古部品が市場に出回る国々では、ブラジル、マレーシア、インドを始めとして、現地での自動車リサイクル事業展開を行い、世界の環境保全、現地雇用の創出に貢献していくことで、次の100年に向けたSDGsへの取り組みを実践していきます。

	活動項目		関連するSDGs	
調達	**リサイクラーズアライアンス**	● 仕入れ価格の適正評価		P3,5
生産	**自動車リサイクル**	● 持続可能な資源の再利用		P5
	農業事業	● 環境保全型農業 ● 雇用創出		
品質管理	**中古部品品質規格基準**	● 安全・安心な商品		
営業販売	**海外中古部品オークション**	● 中古マーケットの適正な相場作り ● 同業他社の販路拡大		P6
	リサイクルまつり	● 地域活性化を通じて地方創生への貢献 ● 自動車リサイクルを学ぶ機会の提供		
海外展開	**自動車リサイクル海外展開** **海外自動車リサイクル研修**	● 環境保全 ● 技術者育成		P3,4

環境・品質マネジメントシステム

2002年　2月　ISO14001認証取得
2005年　3月　ISO9001認証取得

会宝産業株式会社

〒920-0209
石川県金沢市東蚊爪町1丁目25番地
TEL.076-237-5133
FAX.076-237-1950
https://kaihosangyo.jp

2018.05.01
会宝産業株式会社は、持続可能な開発目標を支援しています